

【成長を支える基盤】

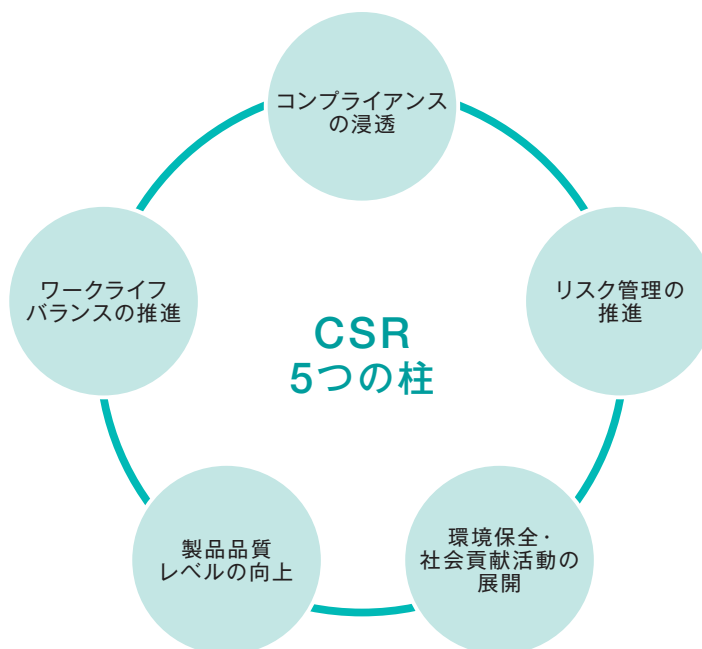
三和グループのCSR

CSRの方針

三和グループが社会に信頼される企業であり続けるため、従来のCSR活動を継続・強化するとともに、社会との持続的共生を目指した取り組みを積極的に推進します。



CSR 5つの柱



私たちの使命である「安全、安心、快適を提供することにより社会に貢献する」を実現し、持続的成長のために企業価値を高めることが三和グループのCSRビジョンです。

ビジョンを達成するには、多くのステークホルダーと価値観を共有し、連携・協力していくことが不可欠であり、中でもCSRを実践する従業員一人ひとりの理解を深めることが必

要です。三和グループは人を起点とする経営を実践し、企業品質を高めながらCSR活動を展開。各ステークホルダー満足の視点から、テーマおよび重点課題を定め、各部門が連携して取り組んでいます。

詳細はコーポレートサイト「CSRの取り組み」をご覧ください。
(<http://www.sanwa-hldgs.co.jp/csr/>)

コンプライアンスの浸透



目指す姿と
成長へのつながり

三和グループは、コンプライアンスの徹底により
透明性の高い経営を実践することで、“経営基盤の信用”を築き、
企業価値を高めます。

コンプライアンス意識の向上に取り組んでいます

三和グループが企業価値を高め、成長・発展していくためには、コーポレート・ガバナンスを有効に機能させた透明性の高い経営が必要です。コンプライアンスはその基盤を支えるものであり、安全確保・法令遵守のための社内体制の強化・徹底を図っていきます。

コンプライアンス行動規範

誠実で透明な企業活動を行うべく、グループ内のコンプライアンス体制を支える「コンプライアンス行動規範」を制定し、従業員一人ひとりに本行動規範の考え方を浸透させることに重点を置いて取り組んでいます。

行動規範の理解を深めるため、各部門で実際に起こり得る事例と解説を盛り込んだ小冊子「コンプライアンス行動規範&ケースブック」をグループ役員全員に配布し、また全員から行動規範遵守の宣誓書を提出させるなど、行動規範の周知徹底を図っています。

コンプライアンス研修の実施

コンプライアンス意識を高めて、法令違反・ルール違反を撲滅するため、グループ各社の管理職を対象とした研修を全国で実施しています。本研修は、コンプライアンス意識の醸成と、遵守すべき事業関連法の知識更新を目的としています。

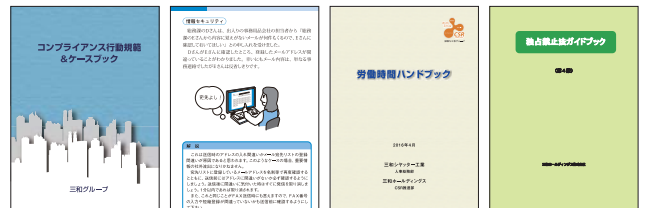
これまで1事業所につき3年に1回開催していましたが、2017年度より2年に1回の開催とし、更なるコンプライアンス意識の定着を図っていきます。

コンプライアンス研修
実施事業所／受講者数
19カ所／1,276名
(2014～2016年度)

三和グループコンプライアンス行動規範

基本原則・精神

- 1 三和グループは、提供する商品・サービスの安全性を最優先に考え事業活動を行います。
- 2 三和グループは、コンプライアンス行動規範に反した行為による利益追求は行いません。
- 3 三和グループのすべての経営者および管理者は、自ら先頭に立ってコンプライアンス行動規範を遵守し、管下従業員に対して模範となるべく行動します。



従業員に配布した冊子
(左から)コンプライアンス行動規範&ケースブック(表紙・中面)、労働時間ハンドブック、独占禁止法ガイドブック



コンプライアンス研修の実施風景

その他の取り組み

コンプライアンス月間の取り組み

毎年11月を「コンプライアンス月間」と定め、コンプライアンス意識の浸透と、それに基づいた行動の徹底を図るためのさまざまな取り組みを実施しています。

内部通報制度の運用について

コンプライアンス体制を強化し、不正や法令違反の撲滅を図るため、2006年10月から内部通報制度である「企業倫理ホットライン」を設置しています。

新・勤怠管理システムを導入

三和シャッター工業では、超過勤務時間の進捗状況や36協定違反の上限時間チェックを可能とした新・勤怠管理システムを2016年1月から導入し、労働基準法遵守の徹底を図っています。

リスク管理の推進



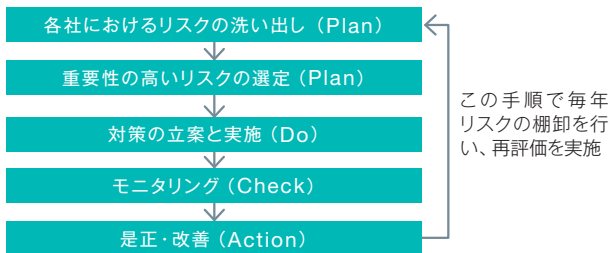
目指す姿と
成長へのつながり

三和グループは、多様化するリスクに対応するため、
全社横断的なリスクマネジメントを実践し、ステークホルダーからの
信頼を積み重ねることで、持続的な成長を実現します。

グループ全体でリスクマネジメントの 推進を図っていきます

三和グループ各社が潜在的に抱えるリスクを予測し、あらかじめ対応策をシミュレーションしておくことで、リスク顕在化の未然防止を図ります。

リスクマネジメントの実行手順



※各社で取り組み、グループCSR推進会議で進捗管理や評価を行い、2017年度からは、海外グループ会社も同様の取り組みを行うことを検討していきます。

事業継続計画 (BCP) の取り組みについて

首都直下型地震が発生した場合のリスクを想定し、中核事業会社の三和シャッターをはじめ首都圏に本社を置くグループ会社において、事業継続計画 (BCP) を策定しました。

BCPの主な取り組み事項

- 早期事業再開を目指した、規定およびマニュアルの装備
- 水、食料品等の備蓄、設備類の転倒防止措置、従業員の迅速な安否確認を目的としたシステムの導入
- 首都直下型地震発生を想定した、対策本部訓練を毎年実施
- 2社購買体制をはじめとする材料・部品の代替調達手段の整備
- 社内主要システムのサーバを、震度6強の地震にも耐えうるデータセンターに移設

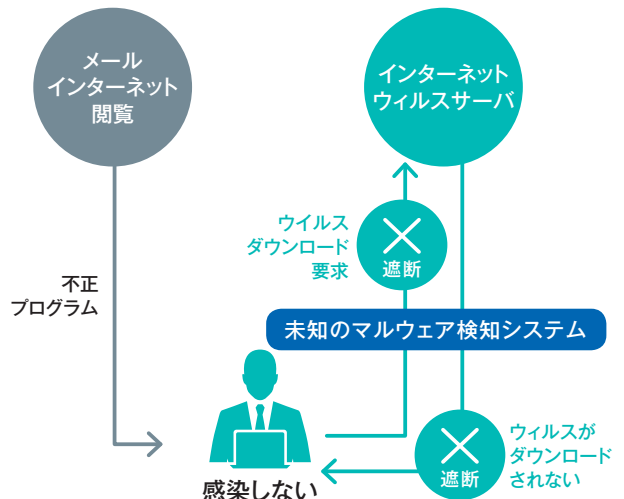
情報セキュリティ対策を 強化しています

企業を狙ったコンピューターウイルスの侵入被害が急増しています。三和グループはこうしたコンピューターウイルス侵入被害防止のための多層化対策により、国内グループの全PCを対象に、情報セキュリティ対策を強化しています。

ウイルス侵入に対する多層化対策

- 1 個別PCでのウイルスチェックの実施
- 2 擬似メール送信など、従業員への教育、訓練実施
- 3 未知のウイルス感染を防止するソリューションの導入
- 4 迅速に復旧対策が可能な社内体制の強化

未知のウイルス検知イメージ



その他の取り組み

事故撲滅に向けた取り組み

三和シャッター工業では、労災事故や交通事故の撲滅に向けて、以下の取り組みを実施しています。

- 1 施工技術者の労災事故撲滅を目指し、「安全知識の教育制度」確立に向けた新たな取り組みを開始。
- 2 営業職の自動車事故が増加している状況を受け、交通事故の防止策として事故発生者に対する「安全運転研修」や、業務で運転をする者全員に対する「運転適性診断」を実施。

環境保全・社会貢献活動の展開



目指す姿と
成長へのつながり

三和グループは、地球環境や地域社会と共生しながら事業活動を行い、よき企業市民として持続可能で豊かな社会の実現に貢献します。

環境負荷物質の削減に取り組んでいます

三和グループでは、事業活動のあらゆる側面で環境保全に取り組んでいます。廃棄物発生抑制もその一つです。

塗料の圧着率を向上し、廃塗料を大幅に削減します

三和シャッター工業の主要ドア工場である太田ドア・広島両工場において、大規模な塗装ラインの改修を行いました。

この改修により、塗料の圧着率が向上し、環境負荷物質である廃塗料が大幅に削減されるとともに、塗装ブースに加温冷却設備を導入し、夏季・冬季におけるブース内の温度環境を改善し、作業者の労働環境を向上させていきます。

塗装排水から有害な亜鉛を除去します

オーバーヘッドドア社（ODC）ルイスタウン工場（シャッター製造）では、粉体塗装排水から亜鉛を取り除くシステムを独自に開発・設置しました。同システムは米国環境保護庁基準を超えて亜鉛を効率的に取り除くことができ、また、運転が簡単であるというメリットがあります。



太田ドア工場の仕上塗装ライン



ODCルイスタウン工場
塗装排水システム

三和シャッター工業の環境データ実績

(単位：トン)

| | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 |
|---------------------|--------|--------|--------|
| CO ₂ 排出量 | 29,757 | 29,081 | 27,946 |
| 廃棄物等総排出量（製造部門） | 1,934 | 2,104 | 2,063 |

社会貢献活動へも積極的に取り組んでいます

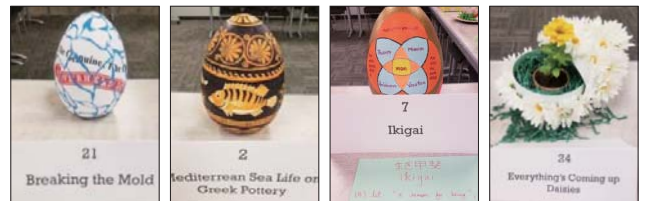
社会貢献倶楽部の活動

三和グループ社会貢献倶楽部では、従業員からの任意の寄付金と同額を会社が拠出して寄付活動を行っています。

2017年3月末時点の寄付先団体数は計25団体、寄付金総額は4,380万円を超えました。

地域住民との関わり

ODCでは、BOYS & GIRLS CLUBS OF AMERICAの活動に参加しています。



イースターの卵装飾コンテストの作品を入札競売し寄付

その他の取り組み

現地特産物を使用した製品を地元へ寄贈

三和シャッター工業は、徳島杉に徳島県産の藍染を施した扉を組み込んだトイレブースを、徳島県庁に寄贈しました。



地元コミュニティへの支援

トドコ（ODC）の車両用ドア事業部門は、オハイオ州マリオン・コミュニティの食料運搬車両に同社のウエザータイトドアを寄贈しました。



海洋救助活動への支援

ノボフェルムでは、地中海で海洋救助活動を行っている「ミッション・ライフライン」の組織を支援しています。



九州北部豪雨被害への支援

被災地および被災された方々の救済に役立てていただくため、三和ホールディングスおよび三和シャッター工業は福岡県朝倉市に対して100万円の義援金を寄付しました。

製品品質レベルの向上



目指す姿と
成長へのつながり

三和グループは、世界中のお客様に安全・安心・快適な商品とサービスを届けることで、人々の大切な暮らしを守り、より豊かで便利な社会の実現を目指します。

安全への取り組みを徹底しています

私たちは六本木ヒルズ森タワー（東京都港区）の回転ドア事故が起きた3月26日を「安全を誓う日」と定め、二度とあのような事故が起きないように、より安全を確保するためのさまざまな取り組みに注力してきました。

- 2004.3 六本木ヒルズで回転ドア事故発生
- 2004.9 既存商品の安全対策を推進
- 2005.3 3月26日を「安全を誓う日」として制定
- 2005.12 回転ドア事故機を動態保存
- 2007.4 防火シャッターの危害防止装置を板橋区の小・中学校に寄贈
- 2008.4 施工研修センターの開設
- 2009.3 性能試験センターの開設
- 2014.3 回転ドア事故後10年を機に小冊子「安全の誓い」および安全教育用DVDを制作

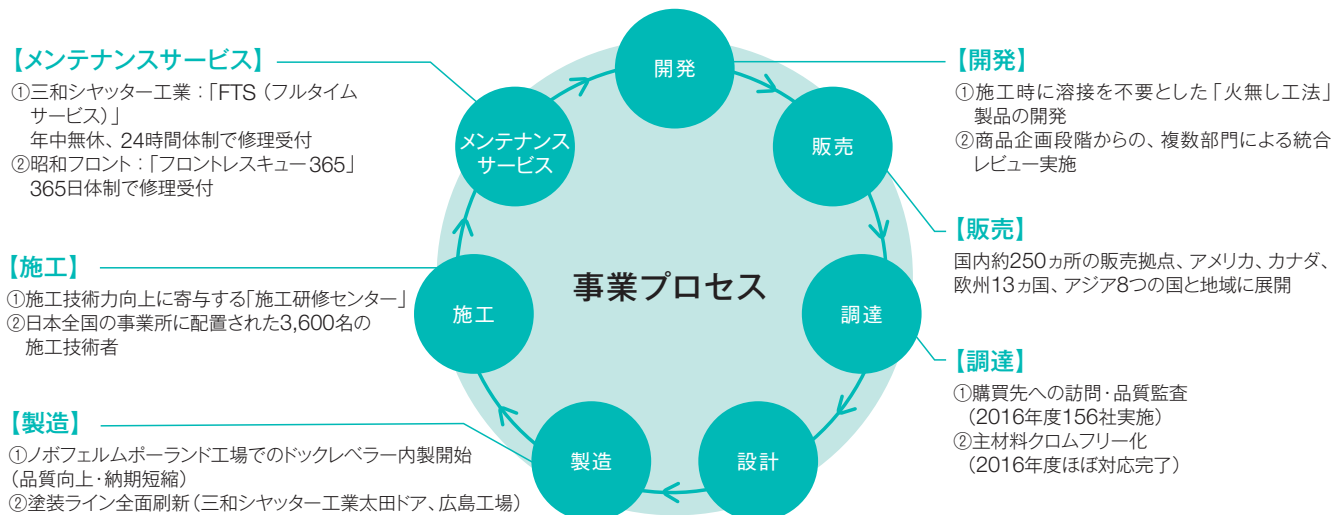
安全に配慮した商品（例）

- 急降下停止装置の標準装置（プロード、重量シャッター）
- ガレージ向けシャッターに光電センサ標準設定（物損事故対策）
- 指はさみ防止機構（マンションドア）
- 園児用トイレプース（商品名：ピーターバン、パンジー）、学校用間仕切
- STガード（自動ドア防護柵／三和タジマ・昭和建産）
- SFXPDシリーズ（自動ドア、丁番ドア、フロアヒンジドア／昭和フロント）
- ガレージドアのトラック（レール）の強度改善による安全性向上（ODC / KohlerVRP9510ほか）
- ガレージドア内部窓枠再設計による安全性向上（ODC / モデル6600）



ライフサイクルに沿った品質向上のための取り組みを行っています

三和グループでは、主要グループ各社においてISO9001（品質保証の国際規格）を取得し、商品開発から製造、販売、施工に至るまで、関係部署できめ細かいチェックを行い、商品の品質確保に取り組んでいます。



その他の取り組み

性能試験センター

三和グループの製品や国内内外の調達品について、品質、性能、安全性の評価、製造技術などの評価のほか、社外からの受託試験も実施しています。

施工研修センター

施工技術者の育成強化を目的とした専門の研修施設を2008年から開設し、施工品質向上、施工技術のスキルアップを図っています。

メンテナンス研修センター

2017年度から「メンテナンス研修センター」を設置し、防火設備の定期検査報告制度への対応に備えた知識の習得、人材の育成に注力しています。

2016年度
総受託試験数

463件

2016年度
施工研修 受講者数（日本）

1,507名



性能試験センター外観



施工研修の様子

人材・ワークライフバランスの推進



目指す姿と
成長へのつながり

三和グループでは、従業員一人ひとりが価値創造の原動力であると捉え、それぞれの持つ能力や専門性を十分に発揮できる活気ある職場づくりを目指します。

成長戦略に基づき、スピードアップしたグローバル人材の育成に努めています

三和グループでは、自ら考え行動する「自律型人材」の育成を目指した人材育成制度の取り組みを進めています。

また、グローバル事業展開の推進に伴い、「グローバル人事企画課」を設置したほか、「海外研修（ODC派遣）」「海外語学研修」「国内語学研修」を教育の柱とし、グローバル人材の育成にスピードを上げ、取り組んでいます。

グループ会社間での人材交流として国内から約30名の従業員がODCやノボフェルム、アジア各社へ派遣されています。また、アメリカでの語学研修、ODC業務を行う海外研修の受講者はすでに13名となり、帰国後それぞれ各方面にて活躍しています。



ODCの
トレーニー

多様な人材が活躍できる職場を目指します

グローバル事業の推進には多様な人材の活躍が不可欠との考えから、外国籍社員の採用などダイバーシティの取り組みを強化しています。

また、労働人口の減少などの環境変化に対応するため、シニア社員の活用や、女性社員のキャリアアップサポートなどにも取り組んでいます。

三和シャッター工業では、女性管理職の人数を2015年度比3倍にする目標を立て、仕事と育児との両立支援制度など、環境の整備に取り組んでいます。

2016年度
グローバル社員在籍者

19名

2016年度
シニア社員在籍者数

175名

ワークライフバランスの向上

三和シャッター工業では、子育て中の女性社員が安心して働けるように、育児休業期間の延長（2歳まで）、育児短時間勤務の延長（小学3年生まで）などの育児支援制度の充実を図っています。また、女性活躍と優秀な人材の確保には長時間労働の撲滅が不可欠との観点から、労働時間の削減にも取り組んでいます。

2016年度
育児休職復帰率（日本）

90.0%

その他の取り組み

競技活動への支援

三和シャッター工業では、自転車競技の近谷涼選手を社員として採用（2015年4月入社）し支援しています。また、車いすバスケットボールの有川美穂選手を採用（2017年7月入社）しました。選手の競技活動支援や応援を通じて、従業員の一層の連帯感醸成を目指していきます。



台湾の女性営業課長

台湾の安和金属工業では、3名の女性管理職が営業の第一線で活躍中です。新規ゼネコンの開拓など、実績を挙げています。

